NEWSLETTER

報道関係各位

2026年11月26日
株式会社LIXIL

LIXIL、金沢工業大学の学生による能登町松波地区への交流ベンチ寄贈プロジェクトに参画

能登黒瓦のアップサイクル建材「textone NOTO-KAWARA」を提供、地域の復興拠点づくりを支援

株式会社LIXIL（以下、LIXIL）は、北陸の建築学生による復興支援活動「GAPPA noto（北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト）」の一環として、金沢工業大学の学生プロジェクト「Toiro」が実施した能登町松波地区への交流ベンチ寄贈プロジェクトに参画しました。同プロジェクトにおいてLIXILは、株式会社CACL（以下、CACL）および有限会社永山祐子建築設計（以下、永山祐子建築設計）と連携し、震災で損壊した能登黒瓦のアップサイクル建材「textone NOTO-KAWARA（テクストーン 能登-瓦）」を提供、学生たちとともにベンチの設計・製作を推進しました。
2026年10月18日（日）には、令和6年能登半島地震で被災した同地区の復興を願い、松波酒造トレーラーハウス（石川県鳳珠郡能登町松波）併設のミニサッカーコート横にて、完成したベンチの寄贈・設置イベントが開催されました。



ミニサッカーコート横に設置したベンチ

寄贈されたベンチに使用された「textone NOTO-KAWARA」は、地震で倒壊した家屋の能登黒瓦を原料として活用し、LIXIL、CACL、永山祐子建築設計の3社共同で開発したアップサイクル建材です。能登の景観を象徴してきた黒瓦は、震災で多くが損壊し廃棄処分される課題に直面していましたが、長年暮らしを守ってきた黒瓦を実用的な建材「textone NOTO-KAWARA」へとアッ

プサイクルすることで、失われた瓦に新たな命を吹き込み、地域の記憶を未来へつなぐシンボルとすることを目指しています。（参考プレスリリースはこちら）



ベンチ座面に使用されている「textone NOTO-KAWARA」

「Toiro」プロジェクトにおいて、LIXILは「textone NOTO-KAWARA」を共同開発した株式会社CACL、永山祐子建築設計とともに、学生たちが進めるベンチの設計・製作をサポートしました。「textone NOTO-KAWARA」の素材特性を活かせるよう、意匠デザインや材料加工について対話を重ねながら学生たちの挑戦に伴走。完成したベンチは、スポーツ観戦時の休憩場所としてだけでなく、地域住民が日常的に集う交流の場としての活用が期待されています。



松波酒造トレーラーハウス内から見るベンチ

10月18日に行われた寄贈イベントでは、震災で全壊した酒蔵や自宅跡地に残る瓦片を掘り起こし、その一部をベンチに埋め込むワークショップが開催されました。「Toiro」の指導教員である下川雄一教授のもと、学生プロジェクトリーダーの金田唯翔さんをはじめとするメンバー11名が中心となって企画・運営を主導。地元の親子や地域住民のほか、能登町の吉田町長をはじめ、能登町、松波酒造株式会社、CACL、永山祐子建築設計、そしてLIXILなどの関係者が多数加わり、地域の記憶を新たなベンチへと刻み込みました。



酒蔵跡地から掘り起こした黒瓦片や陶磁器片をベンチに埋め込む参加者





「貫構造のベンチ」（左）と「内浦ベンチ」（右）に埋め込まれた黒瓦片や陶磁器片



Toiroメンバーによるベンチ製作風景

■ベンチ製作の経緯

日本サッカー協会（JFA）は、能登半島地震からの復興支援として珠洲市、輪島市、能登町の3市町へミニサッカーコート5基を寄贈しました。そのうち1基が、能登町松波地区の松波酒造酒蔵跡地に設置されています。 松波酒造から能登町に 「子どもたちが遊びや休憩に利用できるベンチを整備したい」と相談があり、能登町はGAPPA noto（北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト　会長：金沢工業大学 竹内申一教授) に協力を要請しました。
この要請を受け、GAPPA notoに参加している金沢工業大学Toiroプロジェクト（プロジェクトリーダー：建築学科3年　金田唯翔さん／担当教員：建築デザイン学科 下川雄一教授）が、ベンチの企画・デザイン検討を担当しました。

■ベンチデザインについて

ベンチのデザインは、GAPPA notoに参加する金沢工業大学Toiroプロジェクトが担当し、学生によるデザインコンペを実施。その結果、金田唯翔さんと宮本和輝さんによる2つの最終案が選定されました。

・「内浦ベンチ」（金田唯翔さん案）

「寄せて集まる」をコンセプトに、松波酒造の前に広がる穏やかな内浦の海と、その水面を表す青海波（せいがいは）模様をモチーフとした一人用ベンチです。座面には震災で被災した能登黒瓦の破片を埋め込み、「textone NOTO-KAWARA」の温かみのある色彩との対比によって地域の記憶を表現しています。また、一人用とすることで、サッカー観戦や休憩、地域の交流など、多様な使い方ができることを意図しています。
複数のベンチを組み合わせることで、人々が自然に集まり語り合う場を生み出し、復興の拠点となる空間づくりを目指しました。







・「貫構造のベンチ」（宮本和輝さん案）
松波地区で毎年開催される「松波キリコ祭り」と、震災で全壊した松波酒造の酒蔵建築をモチーフとしたデザインです。酒蔵や伝統木造建築に見られる「貫（ぬき）構造」をベンチの骨格として表現し、地域の歴史や文化を感じられる造形としました。また、座面には松波の「松」と「波」をイメージした意匠を施し、現地で回収した瓦片を埋め込むことで、震災前の日常や風景の記憶を次世代へ伝える役割を持たせています。地域を支えてきた伝統文化と復興への願いを込めたデザインです。


松波酒造・酒蔵の貫構造壁（2023年撮影）
（提供：松波酒造、HAB北陸朝日放送、TOPPAN）


松波キリコ人形祭りのキリコ
（出典：https://notocho.jp/event/568/）







今回寄贈したベンチは、コンペで選定された2案の考え方を踏まえて実施設計を行い、地域の方々との対話を重ねて完成しました。

■ベンチの特長
ベンチには、地震で倒壊した家屋の能登黒瓦を原料として活用した建材「textone NOTO-KAWARA」を使用しています。破損した黒瓦を粉砕して新たな意匠建材として再生する取り組みから生まれました。単なるリサイクルにとどまらず、地域の記憶や想いを未来へつなぐ「創造的復興」を目指すプロジェクトとして展開されています。今回のベンチでは、現地で回収した瓦片を実際に座面へ埋め込み、松波の歴史や震災の記憶そのものをベンチの一部として残しました。

■松波酒造株式会社について
松波酒造は1868（明治元）年創業の酒蔵です。能登杜氏発祥の地として知られる松波地区で伝統的な酒造りを続けてきました。しかし、令和6年能登半島地震により酒蔵は全壊し、現在はトレーラーハウスを拠点に事業を継続しています。 今回のベンチ寄贈は、子どもたちの遊び場づくりにとどまらず、松波酒造の再興と地域コミュニティの再生を後押しする取り組みでもあります。

■GAPPA noto（北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクトhttps://gappanoto.jp）について
令和6年能登半島地震の被災地に建設された仮設住宅地において、居住者の方々の安らぎのある住環境と豊かなコミュニティの形成を支援することを目的に、2024年5月に発足した学生による支援団体です。GAPPA（がっぱ）は石川県の方言で「一生懸命になる」という意味です。
北陸三県の建築系学科のある大学・高専の研究室を単位としたチームが連携し、各仮設住宅団地の居住者の皆さんとのコミュニケーションやワークショップを通じて、モノ・空間・環境をつ

くる「モノづくり」と、出来事・活動・イベントをつくる「コトづくり」の両面から、豊かな生活環境と暮らしをつくるお手伝いをしています。
金沢工業大学の建築学科の学生たちの課外活動団体「Toiroプロジェクト」もGAPPA notoの活動に参画しています。

■Toiroプロジェクトについて
Toiroプロジェクトは、建築学部を中心とする学生たちによって組織される課外活動団体です。建築を学ぶ活動の一環として、地域の各種団体・個人からの要望に応じてデザインからものづくりまでを一貫して手がけています。「Toiro」（十色）という名前の通り、建築の領域だけを見てもデザインや情報技術、構造や環境、構法や施工など様々な分野があり、それらを総合的な知識と能力として融合する力を実体験からよりリアルに学ぶため、学外（社会）に学びの場を求めるべきという考えのもと展開しているプロジェクトです。
これまでに、野々市市本町にある空き家のコミュニティカフェへの改装（2016年）、株式会社小松電業所の総務部オフィスのリノベーション（2018年）、七尾城跡の休憩所の内装デザイン（2021年）、ユースセンター金沢ジュウバコでの家具つくりDIYイベント（2023年）、公園利活用（2024年）、GAPPA noto〔北陸建築学生仮設住宅環境支援プロジェクト〕(2024・2025・2026年)、金沢TONKAN（2026年）などでの実績があります。2026年10月現在のメンバー数は121人です。
https://www.kanazawa-it.ac.jp/gstation/ec-edu/projects/project-40.html

■交流ベンチ寄贈の目的
本事業では、次の5点を目指しています。
・被災した黒瓦の再活用による震災の記憶の継承
・地域住民が集い、交流できる場の創出
・子どもたちの居場所づくり
・松波地区の復興とコミュニティ再生への貢献
・次世代への地域文化・歴史の継承
このベンチが、人々が集い、語り合い、地域の未来を育む新たな場となることを期待しています。

About LIXIL
LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約53,000人の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。
日本国内においては、「愛すべき日常を、つくろう。」をブランドスローガンとして掲げたLIXILをはじめとする、日本の住まいと暮らしに深く根差したブランドを幅広く展開しています。
株式会社LIXIL（証券コード: 5938）は、2026年3月期に1兆5,107億円の連結売上高を計上しています。
LIXILグローバルサイト：https://www.lixil.com/jp/

発行元
株式会社LIXIL（http://www.lixil.com/jp）
本社：東京都品川区西品川一丁目1番1号大崎ガーデンタワー24F
※このリリースは、LIXIL Newsroom（https://newsroom.lixil.com/ja/）でも発表しています。